

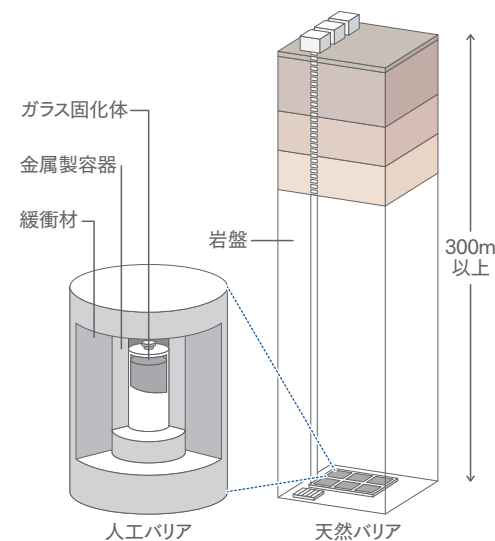
地層処分 “安全性”は大丈夫？

地層処分

これまでの原子力発電の利用で生まれた「高レベル放射性廃棄物」。各国が自国内で「地層処分」することが、国際的な共通認識です。処分地選定を先送りせず、社会全体で考える必要があります。

「高レベル放射性廃棄物」を、 「多重のバリア」で地下深くへ

「地層処分」は、地下300メートルより深い安定した岩盤の中に「高レベル放射性廃棄物」を埋設する安全性の高い処分方法です。この処分方法では、地下深くの岩盤が持つ物質を



閉じ込める性質「天然バリア」と、ガラス固化体を金属製容器に入れ、粘土などの緩衝材で包む「人工バリア」を組み合わせています。この「多重のバリア」で、放射性物質を10万年以上にわたって私たちの暮らしから隔離して閉じ込めます。

「地層処分」は、世界各国が選んだ 最も有望な処分方法

原子力発電の稼働前から、様々な処分方法が世界各国で検討されています。現在では、「地層処分」が国際的に共通の考え方で、日本の法律※でもこの方法が定められています。しかし処分地は決まっておらず、今後はできるだけ多くの地域で調査を重ね、適切な候補地を探す必要があります。

※特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律

日本中で考えよう。地層処分のこと。

